

第6回国際成人教育会議に関する意見交換会（2009/04/10 於国立教育政策研究所）報告

先日、ご案内したとおり、4月10日に文科省関係者の方々と市民社会組織他のみなさんとの2回目の「意見交換会」が開催されました。

文科省及び関係機関の方（6名）と多様な市民社会組織から、総勢30名ほどが出席し、熱気のある会合となりました。

「草の根会議」からは市民社会組織レポート暫定版（ウェブにアップ）と CONFINTEA 参加政府代表へへのお願いの文書「第6回国際成人教育会議における日本政府の対処方針について」（直前にみなさまにお送りしているもの）をお渡しし、説明をさせていただきました。

前者については今後あと二本原稿が入ったところで完成版とし、プリントアウトしたものは一部、後ほど文科省に提出させていただくこと、またその他は資金がないため、PDFファイルでみなさんに広く普及させていただくこと、英語版は印刷して CONFINTEA の本会議にもっていく予定であることなど、ご紹介するにとどめました。

後者については、項目ごとに説明させていただきました。特にこちらについては、本会議での対応についてだけでなく、本会議での議論を生かすためにも、国内の関連調査・データ収集の必要があること、本会議参加資格問題等、関連諸問題が、政府・市民社会組織相互の立場から指摘し合われ、意見交換を超えて前進する討議の場にもなりはじめました。

とても有意義な会合だったと思います。今後もこのような会合を継続したいと一同で確し合いました。

ご出席され、説明にもご助力くださった、教育支援国際 NGO（JNNE）の小荒井さんが、すぐに、以下のような討議結果のメモを作ってくださいましたのでみなさまにお伝えいたします。

2009/04/13 「草の根会議」事務局 荒井容子

国内「草の根会議」から文部科学省への要請事項についての回答

2009/04/11 記録 小荒井理恵

1. 日本政府の取り組みについて

1.1 予算拡大について

CONFINTEA VI では、「予算を拡大すべき」とはいえるが、具体的な数値目標を掲げることは政府としては難しい。そもそも何を根拠とした数値なのか。

1.2 統計データについて

草の根会議メンバーからは、数値目標は統計データとも関連するが、成人教育でいくら予算が配分されているのかも含めて、実態を調査するよう働きかけてほしいと要請。また、

立田先生からは、日本は識字率だけみると高く、調査の必要性が感じられないため、1.2.2は「識字」の実態調査ではなく、「非識字」の実態調査とすべきとのご指摘。

2.1 政府代表団について

栗原さん、笹井先生が参加。閣僚級の参加は国会開催中でありいずれにしても無理であろうとのこと。

なお、日本語では「政府代表団」といっているが、英語の名称は"National Delegates"であり、必ずしも純粋な「政府」の代表だけでなく、市民社会代表も含むのではないかと、との布施さんからの指摘。今後、UILの見解も確認しつつ、継続して協議する。

2.2 会議中における草の根会議との意見交換

CONFINTEA のスケジュールが配布されたが、3日目(5月21日)の成果文書へのコメント締め切り前に、19日 18:00-19:00、20日 19:00-20:00、21日 13:00-14:00 の計3回、政府代表団と草の根会議メンバーで意見交換会を設けることで合意した。現地の状況で臨機応変に行う。

3 . 成果文書について

文部科学省としては草の根会議からの要請についてはできるだけ反映できればとのことであったが、例えば数値目標についてはやはり難しいとのニュアンス。

CLC については、文部科学省も公民館についての文書をまとめてアピールしたい考えである。

成果文書に対する日本からの提案は、全部で4~5点になるであろうとのこと。

5 . その他

- ・ CONFINTEA VI 終了後も、文部科学省と草の根会議の間で数回意見交換会を開き、フォローアップすることで合意。

- ・ 識字は途上国および日本国内に共通する課題であるため、CONFINTEA においても日本政府から議論を喚起していただくよう、草の根会議より要請。